



今月の内容：第50号発行にあたって／今月のトピック／特集「うつくしま農林水産ファンクラブ」／ふるさとを顧みて（只見町出身・鈴木邦芳さん）／農林事務所からお願い／研修会・講習会等のお知らせ

桜前線の急速な北上、これまでにない暖かい春でした。日韓共催のサッカーワールドカップ大会の嵐のような熱気も去り、やっと日常の生活に戻りました。エゾハルゼミの蝉しぐれというより狂騒曲ともいえる鳴き声、いたずら小僧がチラッと覗くような梅雨の合間の青空。うっとうしい日が続きます。早くカラッとした抜けるような青空にならないかと恨めしく空を見上げるこの頃です。

平成10年6月に第1号が発行された「南会津のうりんニュース」は、今月で第50号を迎えました。初めは白黒の2色刷りで、毎月の出来事を読みやすく分かりやすく提供するため、大変苦勞していたことが紙面の中から伺われます。

その後、平成12年の春には多色刷りになり、写真もカラーとなり、眺めるだけでも楽しめる、明るい紙面作りができるようになりました。

ところで、50号にちなみ、50に関係ある言葉を拾ってみました。

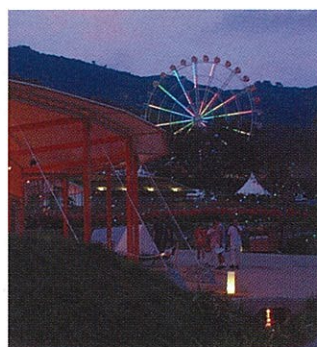
- ・「五十の賀」：数え年50歳になったときのお祝い。
- ・「金婚式」：結婚50年目を迎えた記念日。

- ・「人生五十年、下天の内をくらぶれば夢幻のごとくなり・・・」：いかに人間の命がはかないかを言い表している。
- ・「50の坂を越える」：人生の大台を越えること。
- ・「五十肩」：五十腕とも。50歳頃になり出てくる肩や腕の凝りや痛み。
- ・「50にして天命を知る」：知命とも。孔子が50歳で自分の人生についての天命・運命が何であったのかを自覚したこと。

というように、50という数字は人生の大きな節目を表す数として使われることが多いようです。

そのような意味で、「南会津のうりんニュース」も節目の号に当たります。

「まだ50号」、「もう50号」とらえ方はいろいろあるでしょうが、これからもスタッフ一同気持ちを新たに、南会津地方の自慢できるイベント、ニュースなどをいち早く、詳しく、そして広く、多くの皆さんにお届けするための情報発信基地の役割を果たしていきたいと考えておりますので、御協力、御支援下さいますようよろしくお願いいたします。





# 今月のトピックス

## 第43回福島県農業賞表彰式 ～南会津農業青年クラブ受賞～

県内の農業分野の表彰で最も権威のある、第43回福島県農業賞の表彰式が6月20日に福島市の杉妻会館で行われました。

今回当管内からは、南会津農業青年クラブが晴れの「農業十傑」に輝き、表彰を受けました。

南会津農業青年クラブは平成7年5月に結成されて以来、会員同士の資質向上と親睦を深めることを目的に活動をしてきました。全員が専業農家で、トマト、りんどう、かすみそう等の園芸作物を中心に栽培しています。近年は新規参入者への技術指導やパイプハウス等の設置の支援、地元の小学校が取り組む学校農園などへの支援など、地域活動にも積極的に参加しています。このように農業への取り組みはもちろん、地域の農業振興に大きく貢献していることが認められ、今回の受賞となりました。

表彰式終了後には、県庁の関係各課、南会津農林事務所などを訪ね、「今回の受賞を励みに、ますます地域農業の振興に役立ちたい」と受賞報告を行いました。今後の更なる活動が期待されます。

受賞おめでとうございます!

(地域農林企画室)



## 檜枝岐村に交流施設がオープン

檜枝岐村の「ミニ尾瀬公園」内に、「新山村振興等農林漁業特別対策事業」により平成12年度から整備がすすめられてきた「地域資源活用総合交流促進施設(尾瀬写真美術館)」が竣工し、平成14年7月16日、関係者を招きオープン式典が開催されます。

この交流施設においては、「尾瀬」や「駒ヶ岳」の写真を展示したり、教育的学習の要素を含んだ植物観察会等の体験メニューを開催することで、子ども達の野外学習の場としても活用することとしています。

また、村内を訪れる観光客がミニ尾瀬公園や他の施設等を回遊・滞留することで、都市住民と地域住民とのコミュニティの場が創出され、檜枝岐歌舞伎に代表されるような山村がもつ地域的な特性を生かした古来からの伝統や文化を次の世代に引き継ぐことができるものと期待されています。

檜枝岐村では、農林水産業や商工業を観光産業と連携させながら、さらなる地域資源の有効利用を図り、地域経済を活性化させることとしています。  
(農業振興部)



## 「第16回ファミリー緑の教室」開催される

6月8日、下郷町の「中山風穴公園」において、南会津地方緑化推進委員会、下郷町緑化推進委員会の共催による、「第16回ファミリー緑の教室」が開催されました。

これは、家族で自然にふれあい、楽しみながら森林の働きや大切さを学んでもらうことを目的に開催したもので、南会津郡から23組の家族84名が参加しました。

開校式では、校長あいさつ(南会津農林事務所森林林業部船木部長)に続き、下郷町兎山助役より歓迎のあいさつがありました。

続いて、天然記念物にも指定されている中山風穴地の自然について、下郷町教育委員会の大竹文化財保護係長より説明を受けた後、体験学習として「自然観察会 ～森の宝探し～」を行い、遊歩道を散策しながら楽しく森林について学びました。午後からは「親子木工教室 ～森からの贈り物～」で広葉樹の小枝を利用して思い思いに昆虫や動物などを作りました。参加した家族は、初夏の日差しの中、時間を忘れ楽しいひとときを過ごしていました。

なお、ファミリー緑の教室の一部の経費には、「緑の募金」が活かされています。

(森林林業部)





## 特集!

### 「うつくしま農林水産ファンクラブ」会員募集!

#### 1 ファンクラブ設立の趣旨

全国第3位の広大な県土を持つ福島県では、「もも」や「きゅうり」などの青果物をはじめとし、米、畜産物、きのこなどの林産物や新鮮な水産物など、多彩で豊富な農林水産物が生産され、全国へ向かって供給されています。

そこで、これらの“新鮮・安全・安心”な県産農林水産物をはじめ、古くから地域に伝わる伝統料理や次世代に伝えるべき食文化を見つめ直すことにより、「ふるさとふくしま」のすばらしさを実感し、広く周囲の方々へPRしていただくボランティアの組織として「うつくしま農林水産ファンクラブ」を設立いたします。

#### 2 募集に当たって

##### (1) ファン(会員)の登録期間

平成14～15年度の2年間(入会や年会費等は無料、登録期間中の任意退会可能)。

##### (2) 応募資格等

県内にお住まい、またはお勤め(通学も含む)の18歳以上(ファミリーでの応募も含む)で、「食」や「農林水産業」にご関心やご興味をお持ちの方。

##### (3) ファンクラブの主な活動内容

ア. 「会員証」の発行及び年数回の食や農林水産業に関する情報誌「うつくしま農林水産ファンクラブ通信(仮称)」などのダイレクトメールによる送付

イ. ファンからの「はがき」等による定期的(年2回予定)な返信メール

ウ. 各地方における生産者や関係者との交流会など、各種イベントへの参加

エ. その他、「食」と「農」に関する様々な活動

(4) 募集人数(県全体目標): 1,000名(ファミリー会員含む)

(5) 募集期間: 平成14年6月20日～8月末日(予定)

(6) お問い合わせ先

●福島県農林企画室

(tel024-521-7319 fax 024-521-7944)

〒960-8670(左記の郵便番号のみで住所記載不要)

●福島県南会津農林事務所(地域農林企画室)

(tel0241-62-5866 fax0241-62-5317)

〒967-0004 田島町大字田島字根小屋甲4277-1



## ひとくち普及情報

### 木炭粉は野菜造りの名人



木炭には無数の小さな穴がたくさんあいており、その表面積は、炭1gあたりで、200～300㎡(60～90坪)にもなります。この無数の穴が炭

の成分とともに次の効果を生みだし、植物の成長を助けるとされています。

1 木炭粉を土の中に入れると通気性や透水性などが改善され、保水性が高まります。

2 木炭粉に細菌が住み着いて、植物の成長に欠かせない窒素を空気から作り出します。

3 土の中の他の微生物の働きも活発になり、微生物と密接な関係にある作物は、根の成長が活発

になり、堅い根で、細根も増加します。

4 酸化した土壌を改良します。

5 炭にはカルシウム、カリウムなどのミネラル成分が含まれているため、養分を補給します。

今、南郷村を中心に、品種「桃太郎エイト」(ブランド名「南郷トマト」)の作付けが盛んになされており、季節になると国道からトマトハウスが随所に見受けられます。

今年、伊達森林組合から木炭粉の提供を受け、南会津農業青年クラブが、「南郷トマト」で木炭粉を施用した栽培試験を始めました。今後どのような効果が現れるか、期待を持って観察調査を継続していきたいと考えています。

(森林林業部)



『南会津の思い出』

千葉市美浜区 鈴木 邦芳さん (只見町只見出身)

昭和三十一年、会津から東京へ出てすでに半世紀近いというのに四季の移ろうときには、必ず会津へ「行く」というのか「帰る」というのか。北は北海道から南は大阪まで、全国を転々として働いて来たが、言葉では言い尽くせない会津のぬくもりがいつも心の支えだった。

一年間に最高十七回の会津行きといえば、帰省というよりも、生活の本拠は会津に在りといった感じである。

伊南川の清流。浅草山麓の新緑。尾瀬の草もみじ。朝日岳の紅葉。岩温泉の緑。どれもが新しい生命を私の体によみがえらせてくれる。



人気女優、高木美保さんが、自律神経失調症になり、田舎に居を移してから元気になったという最近のニュースこそ新しいこれからの時代の人間らしい生活のあり方を示しているのではないかと。

浦佐駅を經由して只見線に乗り換えたとき目に入る、青い山波の息を飲むような見事さ。(ノ)

●●● 農林事務所からのお願い ●●●

農薬の適正使用をお願いします!

最近、これまでにないほど食品の安全に対する関心が高まっており、食肉の偽装事件や、中国産の輸入冷凍野菜から農薬が検出された件など、連日テレビや新聞上で報道のない日はありません。

農薬は現在の農業生産に欠かすことのできないものですが、使用量や使用回数を間違えて使用したり、農作物に登録のない農薬を使用したりして、基準値を超えて残留すると、農作物の一定期間の出荷停止もしくは出荷自粛という事態になり、その農家の収入減だけでなく、ひいては県産農産物全体への安全性への信頼を大きく損なうこととなります。

そうならないためにも、農薬はラベルをよく読んで上で、必ず適正に使用し、自分がどの農薬を、どの時期に、どれだけ散布したか判るように散布日誌をつけましょう。

(地域農林企画室)

(ノ) 浅草駅を經由して田島駅に降り立ち、あのさわやかな空気を吸ったとき、身内に湧き上がって来るエネルギーを感じる。

会津はあまり便利にならずに、今のままの美しい姿であって欲しいと願っている。

たぎつ瀬に写る若葉を食みしゆゑ  
底ひのかじか青き縞もつ (黒谷川)  
(平成十一年NHK全国短歌大会秀作)



～研修会・講習会等お知らせ～

内 容	月 日	場 所
① 農業機械研修：トラクタ基本運転研修②	8月 5日 (月) ～ 8日 (木)	農業短期大学校 (矢吹町)
② 農産加工研修：野菜類の乾燥加工	8月 29日 (水)	農業短期大学校 (矢吹町)

※お申込み・お問合せ先：南会津農林事務所 地域農林企画室 TEL 0241-62-5866  
農業普及部 TEL 0241-62-5262



あて先 〒967-0004  
福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1  
南会津農林事務所 地域農林企画室  
TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256  
E-mail minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp  
ホームページ http://www.aaff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/  
みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

タイトル横の写真  
ニッコウキスゲ  
(田島町駒止湿原)  
撮影：鈴木(清)



古紙配合率100%再生紙を使用しています。  
この広報紙は古紙配合率100%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。

